

北海道大学病院てんかんセンターを開設

てんかんセンター開設の目的

てんかんは、皆さんが一般的に考えられているより有病率が高い疾患で、人口比でおよそ1%とされており、日本国内に100万人、北海道内には5万人の患者さんがいらっしゃる計算になります。

最近の報道などで、てんかんと自動車運転に関する話題が大きく取り上げられておりますが、上記のように多くの患者さんが存在していることから、てんかんに対する正しい理解、適切な治療戦略の構築が必要になっております。疾患の特徴もあり、患者さんが置かれている現状は決して望ましいものでないことも多く、社会の理解を得られるための働きかけが非常に重要です。

世界保健機関（WHO）は、本年初頭の行動計画策定において、てんかんの理解と治療の推進を、向こう5年間の主要な項目として掲げました。このような動きに協働して厚生労働省もてんかん治療の拠点作りを始めました。

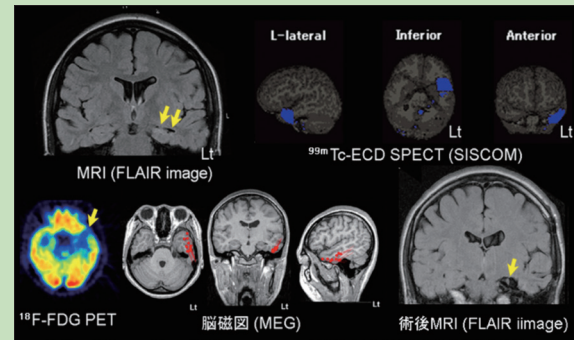
北海道大学は開学当初から精神科・神経科を中心に日本のてんかん治療研究を先導してきました。現在、精神科神経科、神経内科、脳神経外科、小児科が中心となり、てんかんに対する診断・治療を担っております。現在、当院には、精神科・神経科850名、神経内科450名、脳神経外科620名、小児科520名、合計2,440名のてんかん患者さんが通院され、治療を行なっております。特に、種々の抗てんかん薬治療に対して難治に経過している、難治てんかん患者さんや、てんかん手術が必要となる患者さんに対する総合的な診断、集学的な治療を行なっております。

このような経緯を踏まえ、平成27年10月1日に、北海道大学病院てんかんセンターが開設されました。上記4診療科が連携して診療に当たることにより、北海道内におけるてんかん治療の向上に寄与したいと考えております。

組織・設備

北海道大学病院てんかんセンターには、精神科神経科、神経内科、脳神経外科、小児科の専門医師が参加し、綿密な連携に基づき、適切な診断・治療への橋渡しを行なっていきます。日本てんかん学会の研修施設に認定（予定）され、同学会専門医が11名勤務しております。また、脳神経外科は迷走神経刺激装置埋込み術施行施設として認定されております。

てんかん症候群診断の為に検査機器として、MRI、脳波記



（左上）MRI・FLAIR 像

左側頭葉海馬（矢印部分）の萎縮、信号異常（高信号）が認められる。
（右上）99mTc ECD SPECT による、発作時・発作間欠時の血流変化
てんかん発作の発生源が局在している場合、発作間欠時には大脳皮質の血流低下、発作時には血流上昇が認められる。画像は subtraction ictal SPECT coregistered to MRI (SISCOM) を用いて、発作時の血流から、発作間欠時の血流を引いたもので、これでの陽性部分は発作時における血流上昇部位の局在を表わす。

（左下）18F FDG PET 画像

発作間欠時のブドウ糖代謝は、左側頭葉海馬で減じている（矢印）。

（中下）脳磁図によるてんかん焦点の同定

発作間欠時の磁場源は、左側頭葉内側部分に位置した（赤点）。

（右下）術後 MRI・FLAIR 像

左側頭葉前部の切除が行なわれた。現在 24 歳で、発作が抑制されて 7 年が経過し、薬物治療も終了している。

録装置、長時間脳波記録装置、行動観察室、核医学検査機器（PET、SPECT）、脳磁図検査装置が設置されております。また、レクセルフレームと定位脳手術支援システムが導入され、これらのシステムを用いた定位脳手術により深部電極刺激装置の埋込みが行なわれており、パーキンソン病やジストニアに対する機能的脳神経外科手術も行なっております。

てんかんセンター受診方法

主治医の先生方に紹介状・診療情報提供書を作成して頂き、医事課新来予約受付担当を介しまして、受診の予約をして頂きます。その際、適切な受診方法を決定する為に、1～2日のお時間を頂きます。よろしくご理解の程、お願い申し上げます。

詳しくは、以下のてんかんセンターホームページをご参照下さい。

<http://www.huhp.hokudai.ac.jp/hotnews/detail/00001056.html>

内科Ⅱ外来の紹介

内科Ⅱ 外来医長
堀田 哲也

内科Ⅱ外来では、膠原病、糖尿病・内分泌、腎臓の三つの専門分野の診療を担当しています。患者さんには良質で先進的な医療を提供し、病診連携などを通して地域医療に貢献すべく日々診療にあたっております。

膠原病外来

関節リウマチに対しては各種生物学的製剤をはじめとする最新の治療を積極的に行うとともに、放射線科と連携し全身関節 MRI による活動性評価を世界に先駆けて行っています。全身性エリテマトーデスに対してはミコフェノール酸モフェチルを積極的に用い、より副作用の少ない、特に女性の卵巣機能に配慮した治療を行っています。抗リン脂質抗体症候群に対しては当科の研究室で様々な抗リン脂質抗体を測定し診療に役立てています。強皮症に対しては皮膚硬化を対象とした治験を現在行っています。膠原病性肺高血圧症に対しては血管拡張療法と免疫抑制療法を組み合わせた最新の治療を行うとともに、内科Ⅰ、放射線科と連携し心臓 MRI による重症度評価を世界に先駆けて行っています。多発性筋炎・皮膚筋炎に合併する間質性肺炎に対してはタクロリムス、シクロホスファミドなどの免疫抑制薬を積極的に用い良好な治療成績が得られています。また、ベーチェット病を対象とした治験を現在行っています。



糖尿病・内分泌外来

糖尿病外来：1 型糖尿病や 2 型糖尿病、境界型等に対して、医師、専門看護師、糖尿病療養指導士が協力して診療・生活指導に取り組んでいます。CGMS（持続血糖モニター）等を用いて病態解明を行い、インスリン導入、CSII（持続皮下インスリン注入療法）、新しい経口血糖降下薬を積極的に導入して、安全かつ良好な血糖コントロールの獲得を目指し、細小血管障害による QOL 低下（網膜症による失明、腎症による透析、神経障害と動脈硬化による足壊疽）や、心筋梗塞や脳梗塞などの動脈硬化疾患の、発症・伸展抑制に努めています。特に新規人工透析導入の第一位である糖尿病腎症に関して透析予防指導や当科腎臓外来との連携を行い包括的な診療を行っています。

内分泌外来：下垂体・副腎疾患等を主に取り扱っています。特に腫瘍性病変に対して、下垂体（非機能性、先端巨大症、クッシング病等）は脳神経外科と、副腎（原発性アルドステロン症、クッシング症候群等）は泌尿器科と連携して、治療法決定、手術適応、周術期管理、術後ホルモン補充等きめ細かく対応しています。



腎臓外来

腎臓病外来の新患は、月曜から金曜まで毎日予約制で診療し、再来も毎日一人もしくは二人の担当医で診療しています。診療対象となる疾患は、腎機能障害や尿異常を認める慢性腎臓病（CKD）、IgA 腎症などの慢性糸球体腎炎、膜性腎症、巣状分節性糸球体硬化症、微小変化型ネフローゼ症候群などのネフローゼ症候群、糖尿病性腎症、急速進行性糸球体腎炎、急性腎障害、多発性嚢胞腎など内科的腎疾患の他、高血圧性疾患や電解質異常など、幅広く診療させていただいています。新たな国民病ともいわれる慢性腎臓病については、薬物療法の他、食事療法や生活療法を学んでいただくため、教育入院も行っています。末期腎不全に至った場合には、腎代替療法の選択（血液透析、腹膜透析、腎臓移植）について説明し、透析導入や泌尿器科移植外来への紹介を行っています。そして、常染色体優性多発性嚢胞腎は、2014 年 3 月に、嚢胞の増大を遅らせる効果のあるサムスカ[®]錠が承認され、当科ではこれまで 30 人以上の患者さんに導入し、良好な経過が得られています。



形成外科外来診療のご紹介

形成外科 外来医長

小山 明彦

形成外科は、ケガや腫瘍あるいは生まれつきの疾患などにより身体に生じた欠損や変形を、さまざまな手術手技や特殊技術を駆使して機能と形態を再建・修復することで、みなさまの「生活の質 "Quality of Life : QOL"」の向上を目指す外科系の診療科です。

当科は開設から今年で 50 年の記念の年を迎えました。形成外科の分野において全国で最も古い歴史を持つトップランナーのひとつとして、北海道の医療にさらなる貢献をしています。



対象疾患

形成外科の治療対象は、熱傷や切り傷・擦り傷・顔面骨骨折などの外傷、唇裂口蓋裂・頭蓋骨早期癒合症・小耳症・副耳・多指症・合指症などの先天性形態異常、顎変形症、皮膚や皮下組織の腫瘍、傷あと・ケロイド、床ずれや下肢の皮膚潰瘍、でべそ、あざ、そして乳房再建などの術後組織欠損の再建など、多岐にわたります。

以下、専門領域ごとに、当科の治療内容と特徴を示します。

腫瘍・再建外科

皮膚腫瘍：皮膚腫瘍は形成外科において最も多く取り扱う疾患です。体表面の疾患ですので、単なる病変部の切除のみならず、その痕跡つまり傷跡や変形を可能な限り目立たせないために最大限配慮し、高いレベルの再建治療の提供に努めています。また悪性腫瘍では、外科切除とリンパ節の探索による転移の制御、最新の薬剤治療である分子標的薬など、多角的かつ先端の治療を推進しています。

乳房再建：乳がんで失われた乳房を人工乳房（シリコンインプラント）で再建する治療方法が保険適応になったことを受け、当科では乳腺外科と共同して乳がん術後の乳房再建にといった取り組みをしています。

頭蓋顔面外科

唇裂・口蓋裂：顔面の先天性形態発育不全で最も頻度の高い唇裂・口蓋裂の治療には専門家らによるチーム医療が欠かせません。当科では 30 年以上にわたりチーム医療を推進し、

現在、医科・歯科の専門家らによる「顎顔面ユニット」の組織名で合同特殊外来を立ち上げて、最善の治療を提供しています。現在では唇顎口蓋裂を初回の 1 回の手術で閉鎖を完了させる「一期手術」を推進し、極めて良好な治療成果を上げています。

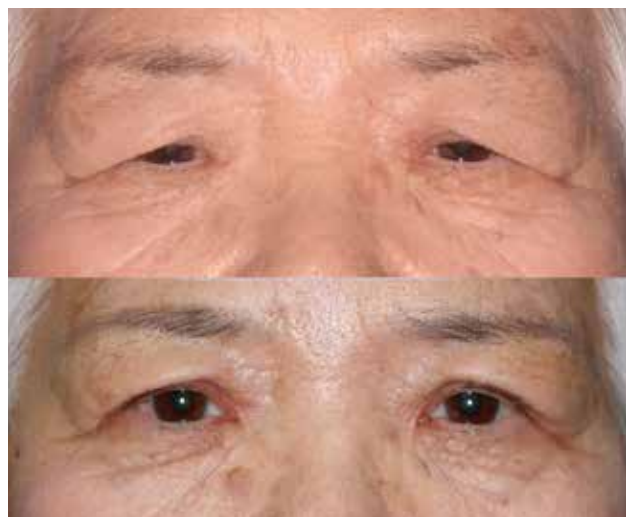


小耳症：生まれつき耳介が小さかったり欠損していたりする疾患です。現在は再建した耳介だと気づかれないほどの自然な形態を得られるに至っており、その治療成績は全国的にも高く評価されています。

頭蓋骨早期癒合症：生まれつき頭蓋骨の発育障害を来す疾患で、頭蓋骨を拡大・形成する手術が必要な場合があります。当科と脳神経外科では合同外来「クラニオ外来」を設置し、この特殊疾患に対する先端治療を推進しています。

整容・美容外科

高齢化社会に突入した現代社会においては、「シワ」「シミ」「皮膚のたるみ」を整容することによって心の改善を図り、潤いのある充実した生活を提供することが医療機関における重要な役割のひとつとなっています。当科では 2005 年に、道内の他の基幹病院に先駆けて「整容・美容外科」を併設し、先端的な美容外科技術の開発や高齢者の QOL の向上を目指した抗加齢医療を提供しています。



「高いQOLと早期社会復帰を目指した医療」

泌尿器科 外来医長

土屋 邦彦

泌尿器科は、老若男女問わず尿路系（腎臓・尿管・膀胱・尿道）と男性生殖器（前立腺・陰茎・精巣）の様々な疾患を扱い、外科的治療のみならず内科的治療や放射線治療なども他科と連携し行っております。特に近年、高齢化社会が進み泌尿器科を受診される高齢者が増加傾向にあります。我々は、QOL（生活の質）の向上と早期社会復帰を目指し、より安全で高度な医療を提供できるよう日々研鑽を重ねています。

今回は、小児外来・神経因性膀胱外来・移植外来・腫瘍外来と4つある専門外来での特徴をそれぞれご紹介致します。

小児泌尿器疾患

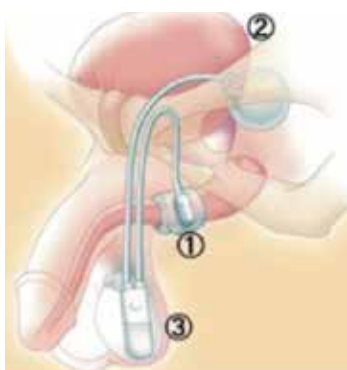
停留精巣や先天性水腎症、膀胱尿管逆流症などの頻度の高い疾患から、稀な泌尿器系先天疾患まで、豊富な診療経験を有します。特に尿道下裂に対する尿道形成手術は当科オリジナルの術式が国内外で高い評価を受けており、道外からも患児の紹介があります。近年では腎盂尿管移行部狭窄症に対する腹腔鏡手術など低侵襲手術の応用が小児領域にも導入されてきています。



下部尿路機能障害

脳血管疾患、神経変性疾患、骨盤手術後などに起こる膀胱神経障害や、高齢男性に多い前立腺肥大症などの排尿障害をきたす疾患の病態を解明し、個々の患者に見合う治療を行っています。最近では女性に多くみられる腹圧性尿失禁、間質性膀胱炎、過活動膀胱、骨盤内臓器脱などについても積極的に対応しており、低侵襲治療や先進医療を適用しています。

また、前立腺全摘除術後などの尿道括約筋に原因がある重篤な尿失禁に対し、人工尿道括約筋の植え込み術も行っております。



腎移植・血管外科

小児や合併症を持つ腎不全患者に対する腎移植や、腎動脈狭窄による腎血管性高血圧、腎動脈瘤などの腎血管疾患に対する診断、治療を行っています。また、脳死臓器法案改正後に増加している多臓器提供に対応するために、臓器移植医療部や全道の臓器提供施設と連携して移植医療を推進しています。



泌尿器腫瘍

泌尿器の悪性腫瘍のうち腎癌や前立腺癌は近年増加しており、進行した癌に対する新たな治療法の開発が進んでいます。尿路上皮癌や精巣腫瘍に対する化学療法、進行性腎癌に対する分子標的治療、膀胱癌や前立腺癌に対する金マーカー留置動態追跡放射線療法などの新しい治療法が展開されています。小さな腎癌に対しては腹腔鏡による腎部分手術が標準的治療となっており、ほとんどの方が手術翌日から歩行可能となっています。また、2013年6月にロボット支援前立腺全摘除術を導入し、3次元での術野・30倍の拡大視野・手元のコントローラを用いての微細な手術を行うことが可能となり、現在まで100例以上施行され実績を積んできております。



皮膚科外来の紹介

皮膚科 外来医長
乃村 俊史

皮膚科には、経験豊かな日本皮膚科学会認定皮膚科専門医が多数在籍しており、地域施設では対応が困難な悪性腫瘍・自己免疫疾患・遺伝性疾患・重症薬疹などを中心に診察しております。診断や治療法の選択に難渋する症例については、毎週水曜日に皮膚科医師全員でディスカッションを行い、患者様に対して正確な診断と最善の治療法選択を行えるよう努力しております。また、生物製剤を用いた治療や遺伝子解析等の先進医療も行うことが可能であり、地域医療の「最後の砦」として機能できるよう今後も研鑽を積んでいきたいと考えておりますので、引き続きご支援の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

皮膚科外来状況 (図 1)

皮膚科では、木曜日を除く、平日の午前中に一般外来を行っています。さらに、専門外来として、自己免疫性水疱症外来(毎週火曜日午後)、遺伝相談外来(毎週水曜日午後)、皮膚外科外来(毎週木曜日午後)、乾癬外来(毎週木曜日午後)、レーザー外来(毎週木曜日午後)、紫外線外来(毎週木曜日午後)、表皮水疱症外来(第1・第3金曜日午後)、魚鱗癬掌蹠角化症

外来(第2・第4金曜日午後)を行い、患者様からの多様なニーズにお応えできるよう努力しております。初診の患者様の外来受診は、北大病院の他科と同様、完全紹介予約制になっておりますので、初診時には紹介状をお持ちいただき、事前予約をお取りいただく必要がございます。2014年も様々な診療科・医療施設の先生方から多数の患者様をご紹介いただき、初診患者数は2016名でした。病勢が落ち着いた患者様につきましては積極的に逆紹介をさせて頂いておりますので、患者様のご紹介をはじめとした当科外来診療へのご協力をお願い申し上げます。

皮膚科外来手術 (図 2)

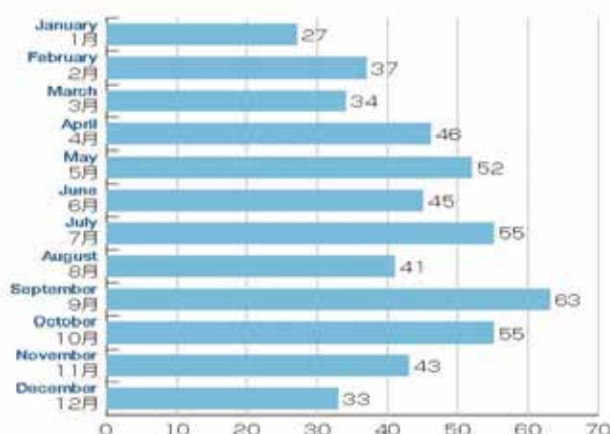
皮膚科では、入院手術に加え、積極的に外来手術を行っております。外来設備とスタッフの充実に伴い、外来手術件数は増加傾向にあり、2014年は531件の外来手術を行いました。良性悪性を問わず、皮膚腫瘍の患者様がいらっしゃいましたら、引き続き当科へのご紹介をよろしくお願い申し上げます。

北海道大学病院 皮膚科 外来診療案内 (H27年12月現在) (図 1)

曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	皮膚科スタッフ ＜交代制＞ 氏家英之(助教) 新熊 悟(助教)	皮膚科スタッフ ＜交代制＞ 乃村俊史(助教) 岩田浩明(助教)	清水 宏 (教授) 皮膚科スタッフ ＜交代制＞ 藤田靖幸(講師) 夏賀 健(助教)	病棟 総回診	西江 渉 (准教授)
午後	—	自己免疫性水疱症外来	遺伝相談外来	皮膚外科外来 レーザー外来 乾癬外来	表皮水疱症外来 (第1,3週) 魚鱗癬掌蹠角化症外来 (第2,4週)

特殊外来	担当医
皮膚科遺伝相談外来 (水曜日午後)	清水 宏(教授)
レーザー外来 (木曜日午後)	大口由香(医員)
皮膚外科外来 (木曜日午後)	秦 洋朗(助教)
乾癬外来 (木曜日午後)	藤田靖幸(講師)
自己免疫性水疱症外来 (火曜日午後)	氏家英之(助教) 岩田浩明(助教)
表皮水疱症外来 (第1,3金曜日午後)	新熊 悟(助教) 藤田 靖幸(講師)
魚鱗癬掌蹠角化症外来 (第2,4金曜日午後)	乃村俊史(助教)

2014年月別外来手術件数(総計531件) (図 2)



口腔外科外来の紹介

口腔外科 外来医長
足利 雄一

口腔外科では、10名の口腔外科専門医が中心となり、年間約2,300名の新患、600名の入院患者の治療に当たっています。治療は口腔顎顔面領域の炎症・外傷・腫瘍・嚢胞・粘膜疾患・唾液腺疾患・顎関節疾患・顎変形症・唇顎口蓋裂など幅広く行っています。また、基礎疾患のある患者さんの抜歯・埋伏歯の抜歯・歯の移植・再植術およびインプラント手術等も行っています。とくに、悪性腫瘍・顎変形症・唇顎口蓋裂では疾患を総合的に診断治療するため他の診療科とも協力してチームアプローチによる治療を行っています。当科での治療の一部をご紹介します。

口腔癌、顎骨良性腫瘍

舌がん、歯肉がんをはじめとする口腔悪性腫瘍は咀嚼、嚥下、発音などの機能に関わる疾患でその治療には腫瘍を制御するだけでなく機能温存を考えた治療が必要です。進行がんに対しては術前化学放射線治療の後に腫瘍切除即時再建術を行い、腫瘍の制御と機能温存を目指した治療を行っています。また早期に摂食嚥下機能の回復が計られるように嚥下訓練も積極的に行っています。

顎骨に発生するエナメル上皮腫、角化嚢胞性歯原性腫瘍などの歯原性腫瘍の治療には反復処置法を行うことで、顎骨をできるだけ保存し、口腔の形態と機能を維持するよう努めています。



唇顎口蓋裂

唇顎口蓋裂の治療では、本院歯科・医科の専門各科を結集したチームアプローチ体制のもとで、言語と顎発育の双方の充足とともに手術侵襲の低減化をめざして、早期顎矯正治療、骨露出創を最小限とする一期的口蓋形成手術法ならびに下顎外側皮質骨を用いる顎裂骨移植手術法で構成された治療プロトコルを実施しています。科学的根拠に基づく標準治療をめざし国内多施設共同の比較臨床研究による検証もすすめています。



顎変形症

顎変形症とは、先天性および後天性原因によって起こるすべての顎形態異常で、いわゆる「受け口」や「出っ歯」、外傷後の噛み合わせ異常などを含みます。機能的に安定した噛み合わせを得ることを治療目標の第一の掲げ、口腔外科、矯正科、補綴科とのチームアプローチにより一貫した噛み合わせの改善治療を行っています。現在までの約40年間で1500以上の症例に取り組んできており、安定した術後の噛み合わせは全国的にも高い評価を受けています。現在は、顎口腔機能の早期回復、入院期間の短縮、また、今まで治療の対象にならなかった世代への対応などにも積極的に取り組んでいます。



口腔顎顔面外傷

口腔顎顔面外傷は顔面皮膚や口腔粘膜の損傷だけにとどまらず、歯の損傷・上顎骨・下顎骨・顎関節突起・頬骨・頬骨弓など顔面を形成する骨の骨折を伴う場合が多くみられます。口腔外科では外見の損傷だけでなく、噛み合わせなどの機能の回復を重視した治療を行います。

顎関節疾患

顎関節症は顎運動時の疼痛、開口障害、関節雑音などの症状を伴う顎運動機能の障害を特徴とし、治療としてスプリント療法、関節腔の洗浄などを行っています。その他にも、顎関節の先天異常および発育異常、脱臼、骨折などの外傷性病変、変形性関節症などの疾患を治療いたします。

口腔外科の新患は、月曜から金曜までの偶数日午前に予約制で診療しており、再来は担当医制で診療を行っています。患者さんがいらっしゃいましたら、ご紹介をよろしくお願い致します。

トピックス

平成27年度北海道大学病院地域連携懇話会を開催

9月11日（金）午後3時半からKKRホテル札幌「鳳凰」において、平成27年度北海道大学病院地域連携懇話会を開催しました。本懇話会は、本院と関連の深い地域医療機関の関係者に本院の紹介と報告を目的として企画しました。

はじめに寶金清博 病院長の挨拶の後、渥美達也 地域医療連携福祉センター長から、同センターにおける地域連携の取組について詳細な紹介がありました。引き続き、清水伸一 陽子線治療センター特任准教授から、先進医療で行われている「陽子線治療センターの紹介」、北川善政 歯科口腔内科診療科長から「歯科診療センターの紹介」、中川 伸 精神科神

経科准教授から「もの忘れ検査入院の紹介」、丸山 覚 泌尿器科助教から「泌尿器科におけるロボット支援手術」について、個々に詳細な紹介がありました。最後に特別講演として、北海道保健福祉部地域医療推進局地域医療課長 大竹雄二氏から「北海道の地域医療について」の演題で、医療制度の変遷と地域医療の機能分化の必要性について、講演がありました。

当日は76名（学外42名・学内34名）の参加者があり、講演後、質疑応答が行われ盛況のうちに本懇話会を終了しました。

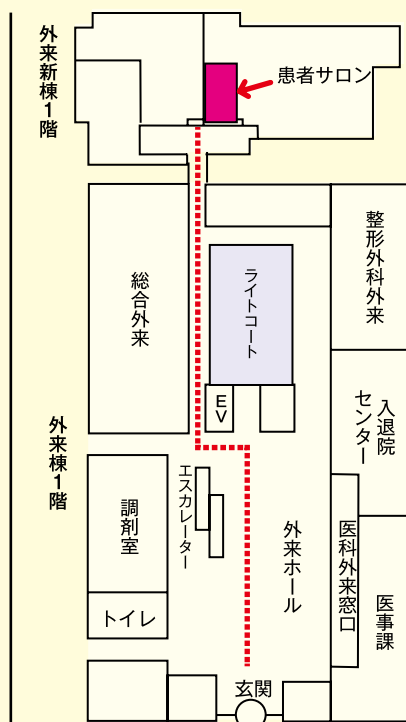


腫瘍センター 患者サロン

北海道大学病院腫瘍センターの患者サロンでは、がん患者やそのご家族の皆様を対象に、カフェなど各種交流イベントを開催しています。

- ・ **がんサロン「なないろ」** 月1回（不定期）
がん患者さんと家族のためのサロンです。
次回開催予定：平成27年12月18日（金） 13:30～15:00
クリスマスイベントとして、クリスマスカード作りを行います。
- ・ **「わかばカフェ」** 毎週月曜日（祝日を除く） 14:00～16:00
子育て世代のがん患者さんのための患者サロンです。
- ・ **「ことりカフェ」** 不定期開催
親ががんで闘病中の子どもたちを対象とした交流イベントです。
次回開催予定：平成28年1月15日（金） 13:00～15:30
ゲームや工作をして楽しみながら、がんについて学びます。

各イベントの詳しい情報は、北海道大学病院腫瘍センターのウェブサイト（<http://cancer.huhp.hokudai.ac.jp/>）でご確認ください。



INFORMATION

北海道大学病院 各ご連絡窓口のご案内

○ 在宅療養支援 ・ 訪問診療、訪問看護の紹介、連携 ・ 社会福祉制度、社会資源の活用 ○ 転院・転医先の病院、施設の紹介、調整 ○ 訪問看護指示書等の指示書に関連する事務	地域医療連携福祉センター 退院調整部門 011-706-7943
○ がん相談支援	がん相談支援センター 011-706-7040 (相談専用電話)
○ 新来予約受付・紹介予約 ○ 精密検査紹介患者受付 ○ 外来検査患者紹介 ○ セカンドオピニオン受付	医事課外来第二係 011-706-6037
○ 主治医意見書作成受付 (介護保険・生涯福祉サービス・生活保護法介護扶助) ○ 主治医意見書・障害者手帳申請に関する説明、生活保護の病状調査票 (医療要否意見書)、高額療養費に関する説明	医療福祉相談室 (医療支援課医療福祉係) 011-706-5646
○ 歯科診療に関する全般事項	歯科診療センター事務室 (医事課医事係) 011-706-4328
○ 特定の診療科に関する事項	各診療科 北大病院ウェブサイトからご覧ください。 http://www.huhp.hokudai.ac.jp/
○ 医療機能連携協定に関する事務 ○ 地域医療連携福祉センター広報誌発行 ○ 各医療機関への案内文発送 ○ 各医療機関を含めた医療職に対する研修やセミナーの開催に関する事務	地域医療連携福祉センター 連携支援部門 (医療支援課地域医療連携係) 011-706-5629

・ 編 ・ 集 ・ 後 ・ 記 ・

10月から地域医療連携係に配属となりました佐々木 学と申します。これまで大学の広報や教育制度に関する事務を歴任してまいりましたが、病院での勤務は初めてです。まだまだ知らないことばかりですが、少しずつ勉強しながら取り組んでまいりますので、ご要望やご不明な点がございましたら、どうぞお気軽にお問い合わせください。

発行 平成27年12月

北海道大学病院 地域医療連携福祉センター

〒060-8648 札幌市北区北14条西5丁目

TEL: 011-706-7943 (直通)

FAX: 011-706-7945 (直通)

<http://www.huhp.hokudai.ac.jp/relation/>